

## なんと未来ミーティング＜移住者コース＞開催記録

開催日時■令和元年11月4日(月・休)午後2時～4時

開催場所■いのくち椿館(会議室・視聴覚室)

参加人員■＜移住者＞17名

＜ファンリテーター・司会＞なんと未来支援センター2名

＜市側＞田中市長、齋藤副市長、上口市長政策部長、柴市長政策部担当部長、  
荒木市民協働部担当部長、市川市民協働部次長・南砺で暮らしません課長、  
上野情報政策課長

南砺で暮らしません課定住・空き家対策係3名、情報政策課広報係2名

＜傍聴者＞3名

＜その他＞なんと未来支援センター 2名

その他■臨時保育室開設 利用者5名(利用児童7名)

## スケジュール■

14:00 開会

14:05 市長あいさつ

南砺市の取り組みについて(プレゼンテーション) 市長、南砺で暮らしません課

14:30 グループワーク

15:30 グループ発表

15:45 市長総評

16:00 閉会・記念撮影・解散

## 市長および南砺で暮らしません課プレゼンテーション■



人口減少や少子化、高齢化率の進行など、南砺市は難しい厳しい問題を抱える中、地域の様々な方が一緒に暮らし、認め合って行けるような社会を作っていくためには、また、「田園回帰」と言われるように、昔よりも地方に関心を持ち地方で働くことに喜びを感じている人が多くなってきていることなど、無関係から移住に至るまでを「関心」と「関与」のグラフを使い説明しながら、SDGsや応援市民制度、副業プロジェクトなど、「一流の田舎」を目指す南砺市の様々な取り組みを紹介した。そして、移住されたみなさんから、「もっとこういうことがあればいい」、「次に移住される方にどうやって南砺市をPRしていけばいい」というアイデアをいただきたいと話した。

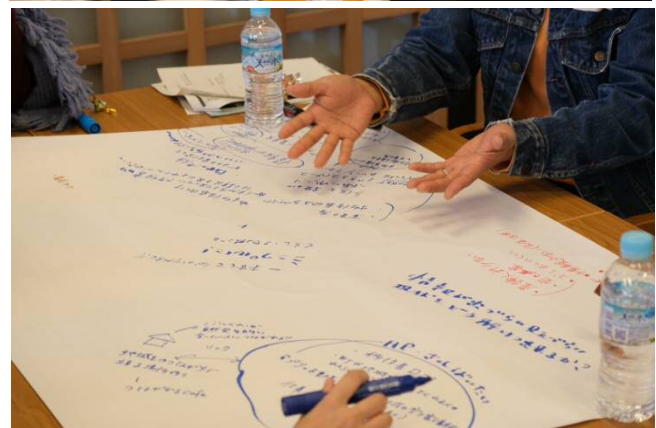
続いて、南砺で暮らしません課担当職員が、日頃自分たちが携わっている移住定住に関する施策の概要を説明し、みなさんが移住前と比べて、「もっと南砺市のここがこうだったらいいのに」、「こうだったらもっと住みよくなるのに」と思うことが南砺市がよくなるヒントであり、みなさんだからこそ気づけるアイデアを今日のミーティング

で言葉にしてくださいと呼びかけた。



### グループワークの内容■

Iターン・Uターン・結婚などを機に南砺市民になった方に、地域おこし協力隊のメンバーを加えた今回の参加者たちは、ランダムに分かれたグループテーブルごとに自己紹介を行い、自分たちが移住して困ったことや課題の提案など、それぞれの思いを模造紙に書き出し、自由に質疑応答を交えながらグループテーマを選んだ。次に、思っていることがどうなって行っていほしいのかを考え、発表に向けて話し合いを進めた。



### 発表内容と市長見解■

(1)B グループテーマ:派遣会社? (1:28:30~)

発表内容:



こんにちは、初めまして。Hと申します。よろしくお願ひします。

これだけを見ていただいてもちょっとわからないんですけど、僕らがまず話した内容が、元々は井波の彫刻師になりたい人たちが井波の彫刻の学校に入ります。そのときにただなかなか入れない。それは井波の彫刻師が師弟制度で師匠さんがおられる。師匠さんは契約・雇用関係を結ばないといけなくて、弟子と。そうすると一人増えた分の収入を自分は稼げるの？という人でないと弟子は取れないんですよ。

結局言いたいのは、移住した人に受け入れ先がないんです。これは実は井波だけじゃないんじゃないかって言うのが僕らの話し始めたきっかけですね。その中でどうしてこうかっていう話をしていたんですけど、「移住したいけど受け入れ先がない」、「農業も勉強したけど受け入れてくれるところがないんです」という話に対して、現地側としては常に人は取れないっていうのがあるんじゃない？っていう。

実際、Nさんは干柿をやっておられて、干柿の組合とかはどんどん高齢化が進んで行くと。常に人は雇えないんだけど冬の間だけやってくれる人がいいとか、高所作業だけ誰かやってくれたらいいんだけど、高所作業はできないからといって廃業していく方も多いいった状況下にあるよという話が出てですね。期間限定の仕事募集すればいいんじゃない？というところが結論として僕らは一番最初にでて、結局は派遣会社じゃないか？っていうそんな話も出てたんですけど、じゃ何で常に雇うことができないのか、それに対して何人かの人で1人の人を雇えばいいんじゃない？っていう話が出て。でもそうした場合社会保険ってどうするんだろうっていうことを結局考えると、面倒くさいからその面倒くさいことをしてまで人を雇うよりは廃業しようかってなっちゃうんじゃない？と。実際募集するにしてもどこに募集をかけるの？っていうのがあるんじゃないかって。その中でそういう団体を作った方がいいんじゃない？そういうサイトを立ち上げた方がいいんじゃない？じゃ誰がやるの？って話になる訳で。実際南砺市には「なんとジョブ」という南砺市の求人情報があるよっていう話とかも出てたりしたんで、そういったところに対して期間限定とか短期間とか、もちろんそういったものに特化したものを作っていくことでその職業を体験したりとか、実際ここにいらっしゃるKさんの知り合いで富山の方が利賀のシアター・オリンピックの間利賀にいて、「もうちょっと山に住みたいんだけど仕事がないからって結局富山市に行っちゃったんです」とって、そういう人達にアクセスできる何かあったらいいんじゃないかなっていうので、うまく募集してくれる場所だとか、後は社会保険の部分だけうまく完備してくれるような派遣会社っていうものがあつたら、もうちょっと来やすくなるかなっていうような話でした。

### 田中市長(1:32:38~)

#### 答弁・質疑内容:

ありがとうございます。いろんな仕組みがある中で、今おっしゃることが課題だと私も思います。特に井波の彫刻から始まったっていうのはまさにそのとおりで、最近内弟子を取れないっていうので、実を言うと今、市としては月に5万円なんですけど助成を出しているんですね。でも3年間という期間を決めていたので、弟子入り期間って5年間で独立するっていう、この2年間でどうするかっていうその辺の詰めがあまりうまくいってなかったっていう。使ってはいいただいていたんですけど、もう少し2年間が大変だっということにはなっていますし、あといろいろと伝統工

芸師としての支援策というのものもあるんですけど、やっぱりあまりこれからどんどん伸びていくところじゃないので、親方の自信がないとなかなか雇えないというのが現実だと思います。

それからスタートして農業もちろんそうで、昔ならね、昔なら農業とスキー場とか、今もそうなんです、農業と除雪とか建設業と農業とかいろんな組み合わせがあったので、おっしゃるとおりで南砺市でもしくは地方で一番大事なのはこの組み合わせ、365日少なくとも250日くらい組み合わせで何かできないかっていうのはすごくわかりますね。あとそこへくると社会保険、労働の環境とかいろんな条件とかをやっぱり誰がどうコーディネートするかっていうのが少し課題になるんですけども、行政としては例えば商工会とかほかの団体とか組合とか、干柿だとかは組合ができてますのでそれなりに制度としてはきちっとできるんですけど、個々の農家になるとなかなかやっぱり難しいんですね。その辺をどうするかっていうのは今日みなさんからもしそういうことができれば、幅広く季節だったり時間だったり土日だったり、いろいろな場面があればもう少しお互い来れる、ここで生活できるっていう道が開けるなっていうのは参考になりました。ちょっと知恵出して行かなきゃなりませんけども。

あともう一つはちょっと書いてあるんですけど、外部からきっかけ作りの中で「ソノトワーク」とか「スマウト」とか「応援市民」とかっていうのはまさにその外部にいてまだ南砺市に移住ではないですけど、「この仕事だけ手伝ってください」、「この時期だけ来てください」っていうのは今やってるんですけど、それはきっかけ作りですね。そういうのはやってるんですが、定住者をどうして仕事を回していくかっていうのはやっぱり誰か何か派遣の会社ってのもあんまりないんですが、海外の人の派遣の会社ってのはあるんですけど、日本人の会社ってのはまだ南砺市にはないですね。こういうのはこれからどうするのっていうのは考えます。

## (2)Aグループテーマ:情報が出づらい見えずらい現状をどう解決出来るか? (1:36:25~)

### 発表内容:



私たちは南砺に移住したときに、南砺に住むための情報が分散していて、一つ一つを確認することがすごく大変っていうことと、わかりづらいし、いろいろ調べて行くうちに調べるのが面倒くさくなってしまふよねっていう話があって、じゃ HP でもアプリでもいいので、一括して移住者が定住するために何が必要だったかをロコミで話せるってことがあったり、街や地域を案内してくれる人の連絡先が載っていたりとか、あとは空き家バンクに繋がる不動産屋はどう探せばいいの?って言うのがわかるとか、仕事・くらしのコアになるような、そういう一括でシンプルにわかりやすい、ここを見れば南砺市のすべての情報がわかるっていうような、そういうものがあれば、もっと南砺を知らない人でも探しやすくなったりとかそういうことが出来てくるんじゃないかなということで話していました。

その中で命名したのが「なんペディア」っていう、「ウィキペディア」ならぬ「なんペディア」っていうので、南砺のいろいろあれこれ情報をみんなで書いて、みんなで修正して、それをシェアすることで南砺の情報がわかりやすく新鮮なものになるっていうのがいいのではないかってことで話していました。

あとは住んでる人が困ったときに、知ってる人とチャットができるようにするとか、そういう南砺の遊ぶ場所スポットはここを見ればわかるとか、そういうところがなかなか入ってみて見つける楽しさももちろんあると思うんですけど、最初からこういうところで遊び場があるんだとか、こういう人と話せばこの地域に住んだときに安心だっていうのが

まずわかるようになれば移住者も住んでる人も安心して移住者を受け入れられるし、移住する人も安心して移住できるのではないかなっていうことで話していました。

それで、HP を作るときに率先してやってくれるリーダーを、新しい地域おこし協力隊の募集枠で作ってもいいのかなとか、一人で作るんじゃなくてみんなの手を借りてみんなで作れるようなポータルサイトがあったらという話になりました。

### 田中市長(1:40:03～)

#### 答弁・質疑内容:

ありがとうございます。二つくらい言うんですけど、実を言うとそういう思いを込めて「Code for Nanto(コードフォーナント)」っていうのが立ち上がって、「Code for Nanto」では例えばごみ袋に QR コードが載ってるんですけど、そこにピッとやるとごみの収集とか全部が分かるとか、あとオープンデータを使ってどれだけデータをつくるかって。でね、あるんですよ HP に。さっきおっしゃったとおり探すのが面倒くさいんですね。「なんペディア」すごくいいなと思って。みんなで作って行くので。

そこでね最近ちょっとほんとに目から鱗の情報があって、今そういうのを考えていきたいなと思ったんですけど、「AI チャットポット」っていう仕組みで、これしかないなと最近思ってるんです。例えば SNS のように、「私福光に住んでてライトが欲しいの。どっかに売ってますか」って書き込むと誰かが書き込んで行くと。でもずっと見てると面倒くさいので、多分移住者のみなさんの場所と何が欲しいかっていうのを最初スタートある程度 AI で何かできるんじゃないかなって。これを南砺市でやるのは非常にお金がかかるんですけど、実をいうと何を言いたいかっていうと、外国人の観光客が来たらみなさんよりわからないんですよ。外国人の観光客が来たときにどこに何があってバスが何時でどうなの？っていうのをわかるような仕組みを作りたいと思って、そういうのがあるんですよ。そういうのに手をあげたいなと思って、それは逆に言う则有事の際、「雨で通行止めになりました。このバス通りません」って言われるときに誰も伝えられないんですけど、チャットポットでバババって打つとか、台風きたからどうのこのとか、そういうのが出来るような仕組みが、なんか今それをこう、南砺移住者もしくは南砺市民版で考えるとすごくわかりやすくいいなと思って、ぜひ「なんペディア」で同じようなことを作って、データがある程度たまってきたら、ちゃんとこう出せるようになる就非常におもしろいなと思っております。私も打ち込むのが好きですので、なんかその中で、暇な人ですからこういういろいろと情報を入れることがございますので、ぜひ「Code for Nanto」と一回相談します、我々は。「Code for Nanto」のメンバーと相談して、どういようなことができるのか、オープンデータもあまり上手じゃないんだよね、まだ我々が、行政側がね。能登さんも専門家ですけど、例えば我々がちゃんとオープンデータでちゃんと出せればそれをどう使うかというだけの話なんで、そういうのを考えてできるだけみなさんが、ずーっと探しに行かずにポッとわかるような仕組みがあれば、観光客でも誰にでも通用するようなことですね。

### (3)C グループテーマ:移住者と地元の人との関係づくり(1:44:10～)

#### 発表内容:

我々は移住者と地元の人との関係づくりということを話し合ってたんですが、これを見てもわからないと思うので説明してくかという、まずNさんが移住してからの経験で…Nさん！Nさんが移住してから仕事の流れとか、この辺だけ先に言ってもらえる？

僕は高岡の方から9年前に結婚して婿さんで相倉の方に入りまして、まず困ったのが仕事について、入って住む以上仕事をしなければならぬ。僕は前の仕事は他県への転勤のある仕事だったので相倉に住んで地域の



ために地域の一員として頑張っていくときには、仕事をやらなきゃいけないってことで「寿退社です」って前の会社を辞めて来たんですけど、まず仕事探しを自力で探さなきゃいけない、よくわからんけど砺波の職安に行ってみて、っていうことで仕事してたんですけど、結局は町の方におったら地域の行事についてなかなかこっちの思ってるとおりに休みが取れなかったりとかあって、やっぱり地元におる方がいいだろうと今地元で働いています。後々わかったんですけど山の方とか

て、例えば知り合いの紹介で社員をどんどん入れてく会社とか、山のルールでいろいろ雇用形態の違うところとかがあって、入って何年かしてから初めて知ったことで、そういったことがあらかじめわかってたらうれしかったなっていうのと、あと例えば相倉の方に僕以外にも一家で移住して来られた方がいたんですけど、仕事に関してはあくまで自力で探してくださいみたいなのところがあって、今はその方はすごい頑張っておられるんですけど、僕にしてもその方にしても来たときにある程度こういう仕事があるよっていうのを、南砺市内も、また行政サイドの方でも「仕事の紹介とかこんなあるけどどう？」っていうのをある程度あればすごい安心感が持てたかなというのが今の感想です。

こんな感じで、みんな来てからなかなか周りが見えない中でおいでる。人によって話すのは上手な人もいればちょっとそこまで「困ってます」とか言えない人も、全くこの5人のグループの中にもいて、みんなそれぞれやり方が違うんであれなんですけど、この「なんペディア」デジタル的なそれもすごいわかりやすくいいんですけど、僕らのノリはちょっとアナログな感じで、それをNさんの言葉で助け船的な人だったり、Hちゃんが南砺の応援市民、外のことじゃなくても、中の応援市民を手伝いたいよとか、そういうことがして欲しいなとか、そういう人がいたらいいねとか。僕の場合は協力隊なんだけれども在職中だったり、終了だったり、そういう各地域の担当、各地域に行ったらどこに、ぼんと話をつける人がいたらいいとか、そういう僕らも協力隊で行ったときは「誰に最初に聞いたらいいですか」ということを担当に聞いていろいろ教わりながら街に馴染んでいってるんですけど、そういう人間を、住民票を移したときに手続きありますよね、そういう時に情報として近くでこういうこと話が出来たらいいんじゃないかって。まさにデジタルで調べるんじゃなくて暮らしません課を通して入ってくる訳じゃない人がいるっていうのを僕らもちょっと知らなかったんで、結婚してから来られると、どこにも情報とか聞くとこがなく入って来られる。じゃ、移した時にちょっとこういう人と話をしたらいいんじゃないかっていう人を、そういう情報をどこかの場所に出してほしいです、という話でした。

南砺市応援市民制度って今あるのをみなさんご存じだと思うんですけど、これ今南砺市の外の人しかなくて、中の人で応援したいんだけどなれないっていうお話を私は聞いて、南砺市の中の人「応援したい」って気持ちはあるので、そういう人もなれたらいいのになと思ったんですね。こういうちょっとお節介な人がいろんな地域にいるのを登録したそういう組織があって、困った人とか情報が欲しい人がそこにアクセスすると、じゃこの人に紹介するよって。その人が案内するとかそういうことが出来る、そんな制度があるよってことを住民票を移した時に知らせるっていうことが出来るというのと思いました。

私は南砺市に来て4年目なんですけれども、嫁いで南砺市に来たんですけど、嫁いでみてとてもいい街だったので南砺市で自分で何かができないかっていうことで今考えてる真っ最中なんです。自分で何か事業を起こ

したいという思いがあって、今仕事はいろいろしてはいるんですけど、特に司会の仕事だったりとか、事務所に所属をさせてもらってるので CM のナレーターだったりとかそういったお仕事をちょっとかじらせてもらってる関係で富山県内でそういう仕事をさせてもらってるんですが、南砺市でまだ司会のお仕事だとかさせてもらえてなくて、ゆくゆくは企業のマナー研修とか人材派遣会社に勤めてたので就労支援みたいところで、ちょっとまだ国家資格のところは取れてないんですが、キャリアコンサルタントみたいなことを南砺市で若い人を育てて相談に乗りながら就労してもらって盛り上げて行けたらいいなという、まだ私の甘い考えなんですけどそういったことを思ってます。そういった場所で発信できる場所が富山市の起業された方のセミナーとかは結構参加はしてて、お話を伝え伝えてもらってるんですけど、南砺市でそういったお話っていうのがなかなかちょっと自分で調べても気軽に参加できるセミナーがなくて、今回職場にいる人からこちらを誘ってもらったんですけど、実は南砺未来ミーティングがあることは知ってたんですけど、ちょっと堅苦しいイメージを持ってまして、ビラをみた時にちょっと私がこんな気軽な感じでは行けないんじゃないかな、結構討論しなきゃいけないんじゃないかなというイメージをビラで感じたのをお話しをしまして、もっと気軽に参加できるものがあつたらいいなというか、今日来てみて、「あ、こんな感じだったんだ」という、気軽に問い合わせができてよかったなどは結果思っているんですけど、ちょっと堅苦しさを感じてらっしゃる方もやっぱり私以外にもいらっしゃるのかなという風には思いました。

#### 田中市長(1:53:04～)

##### 答弁・質疑内容:

ありがとうございます。仕事の繋がりとか、いろいろとまずは相談相手が必要だなということなんでしょうね、多分。最近では地域の中でどういう人が大事かっていうと、例えばこないだの災害の話をしますけど、災害が起きた時にエバンジェリストという善導者というか、リーダーというか、みんなに声掛けて「どっかちょっと非難しましょう！」っていう人が大切だって言うんですけど、地域に必ずそういう人っていう人がいらっしゃると思うんです。相談するとすべて教えてくれるって人が。そういう人がまず分かればいっていいイメージが一つと、それともしかしたら南砺市はあまり機能していないんですけど、住民自治の間での地域支援員っていうのは職員がやってるんです。職員がやってるので、その地域の担当職員みたいな人をまず紹介するとかね。今お子さんがお生まれになる時に手続きに行くときに、「あなたの担当保健師さんこの方です」と紹介するんです。そういうイメージですよ、最初の取っかかりがね。「移住したいんです」というところからそういうところへ変える、なんかそんなことが出来ればもっとスムーズに相談相手が出来るといいのが必要だということがわかりました。

あと、応援市民の中で婚活のおせっ会というのがあるんですけど、移住者のおせっ会というのも兼ねてやっているので、もっと明確に移住者のみなさんのおせっ会を「南砺おせっ会の会」みたいな、今婚活のおせっ会の副会長なんです。その人がもう少し移住者の困り事もお嫁さんの困り事もお節介焼くっていう、そんな方がもしかしたら必要、いれればいいなというのがわかりました。

あと、女性起業塾っていうのがすごく一生懸命頑張っていて、わりと情報が流れてないのかもしれませんが、同じようなことを考えてる人が起業してる人が、浦井さんという方が女性起業塾のいろんなこと段取りとかして講師集めて結構あまり堅苦しくなくて、女性起業家とか男性起業家とか話聞いたりするセミナーなんかをやったりしますんで、誰か紹介できる人いますか？大丈夫ですね？そういう方がいらっしゃるんですね、あと司会業も南砺市内でいろいろと個人でやってらっしゃる方いるので、そういうところとチームを組むと、どうしてもさっきおっしゃったように自分はぶつかってどうしても誰もできない時に、そのネットワークの中にちゃんと入っていればすぐに紹介し合えるっていう、そういうのも居酒屋のその方も司会業とかいろいろやってらっしゃるのでそういうチームも

またあると思うので探してみます。

あと、何度も申し上げますけど、多分みなさんが南砺市へ入って来られた時にいろんな思いを持って、でも今ここへ来たら、こういうこととこういうことがすごく問題だったりわかりにくかったりっていうのが今日今回僕ら分かったことがあるんですけど、もう一つは自分たちが入って来られて行政とは窓口は作りました、今度その住民の住んでる地域との窓口をどう作るかっていうのが、実際我々もこれから考えて行かなければならないんだろうなと感じました。全体的な話して。そうするとそここのところから何かを相談する相手がある程度分かれば非常にこう、スムーズに入れるのかなと思って聞いていました。

あと山の方とか市内にはちょっとさっきから派遣のような話があったんですけど、なんかほんとにね百の姓を持つ「百姓」っていういい言葉で表すいろんな仕事があるのでこれをどうやってみんなでまとめて行けば一つの生業になって行くかなっていう、考えたいなっていう。私が考えるのか、起業する人が考えるのかわかりませんが、人手不足なんです。どこへ行っても人が足りないって言われていて、そこである程度人を集めたいなと思ってるんところがあるんですけど、みんなそれなりに忙しそうで、例えば大学生とか実を言うと高校生はアルバイト禁止なので、高校と雇用主とちゃんとした契約を結んで、短時間でですけど高校生の勉強として社会で体験するとかいろんなことを考えているんですけど、結局は人がいないっていうのが現状なんで、それをちょっとどうするかなって思うと、いろんな仕事をできる人達を、フリーランスの人達も含めて集めたいっていうか、これは南砺市だけではなく金沢からでも富山からでもいいんですけどそういうネットワークがコミュニティが出来ればなあちょっと感じました。

ちょっとバラバラとした話ですけど、そういう風に思いました。いろいろと参考になりましたので考えさせてください。

## 市長総評■

ほんとに短時間でこうして課題を提案していただいて、テーマを決めてお話をしていただいたことに感謝したいと思います。先程チラシの書き方、ちょっと入りにくいなっていうのはそうだと思いますわ。もう少しぎっくばらんにいろんな場所で、今日も構えたような形で未来ミーティングっていう、どういうやり方がいいのかわかりませんが、もう少しこう広げてウイングを広げて、いろんな方に来ていただいて考えて行くことも大事な。例えばですよ、例えば今日は移住者なんですけど、今日の内容を見ると地域の若手もずっと住んでる青年とか若い人たちもこの中にバランスよく入っていると、なんか今言ってることがなんとなくまた動きになって行くっていうそういう気もしました。だから今回、みなさんとこうしてお会いすることができましたので、これからもある意味広げながらいろんな会議が、特に今回連絡を取りやすくしていただければ、どんどんそこへ情報だけバンバン流してみんなで出ていただいたり、手伝い合ったり、そういうネットワークのコミュニティのきっかけに今回なればいいなっていう風に思いました。

私自身もこのやり方も含めて考えて行きたいし、いろいろとみなさんがこうやって出していただいたアイデアの中に自分たちも後輩というか後から入っていただける人たちのために、またこうやってやった方がいいっていうアイデアもかなりいただきましたんで、ぜひこれからもみなさんと一緒にいろんな悩みをぜひ私の小さな身体でよければぶつけていただければ少しずつやって行きますので、ぜひまたその辺も含めてこれからもよろしく願い申し上げます。ほんとにありがとうございました。



閉会・記念撮影・解散■

